

愛媛若葉ひろみ句会

吹か来て吹かれ屋根越す秋の蝶

大川 眺春

余生とは青き夜長の抱き枕

毛利 敦

育ちる月を今宵もたしかむる

梶原 一美

枝垂れ萩花の纏れを風の解く

松岡 寛孝

研ぎたての鎌の切れ味露払ふ

伊藤 京

秋の夜の交番灯の白きこと

高橋 妙

気になりし検査結果よ鱈雲

福本 恵子

秋めいて歩く歩中の整へり

浜田 千鶴

百才をたたふる拍手敬老日

増田とみ子

落し水鉢の重みにひよろづけり

松浦 亀

銀杏の落ちを促す風の音

高田 弘子

落し文候文の出てきそり

芝 都留

そこここに咲く花合歡の紅の色今日は母の忌夫の命日

蛭谷 寿子

秋立つ日こそす咲き初む庭隅に十年飼いし愛猫葬る

武田 幸子

軒先につりしのおあり秋の風遠い昔の記憶の中に

佐々木登美子

踏まれても根強く伸びゆく雑草よ蝕ばむ身体強く生きねば

伊手リツエ

鴉よけに苗のポットを掛けてみる唐黍三個やつと実りぬ

芝 幸子

文芸欄見るたび友の顔浮かぶ逝きて三年歌つくりしか

二宮 安恵

炎天下上向きの花むぎわら草丈長くして凜として立つ

兵田トミ子

要支援切捨と云ふ記事よみてやさしき介護受けつつ案ず

山本まつゑ

バイク乗り連なり走る若きならに事故無き事を願う一瞬

高田 治子

広見短歌会

鬼北の足跡を辿る：【第4回】

愛治・八ヶ森城

11月2日から始まる明星ヶ丘企画展「鬼北の山城を巡る」にちなみ、愛治地区にある「八ヶ森城」を紹介いたします。

昨年、埋蔵文化財包蔵地の現地踏査で、これまで実態の知られていない愛治・八ヶ森城へ登りました。ちょうど愛治小学校の裏山になります。標高260mの山頂からは南方向に国道441号線、西側には長楽寺を見通すことができ、畔屋、清水、生田の集落が一望できます。この城砦について記した文献がなく、詳細は全く不明でした。このような山城であり、遺構も狼煙台程度の小規模なものであるかと考えていました。

頂上にたどり着き、尾根沿いを進むうちに、予想もしていなかった強固な縄張りを目の当たりにすることになりました。

この城は、主に3つの郭に腰郭や小規模な郭を擁した連郭式山城で、北東側から尾根伝いに侵攻してくる敵を遮る堀切や土塁、北西面には腰郭および4本の豎堀を落として強固な守りを形成しています。

これほどしっかりした城の普請がなされ、立地的にも加町坂を越えて三間郷へ通じる重要な道筋にありながら、文献や残存する資料はなく、「清良記」にも八ヶ森城に関することは何も記されていません。

城主が誰であったのか、戦国の世にあってどのような経緯をたどったのか、歴史からも忘れ去られたこの山城の姿からは哀愁漂う戦国のロマンへ思いを馳せることができます。



八ヶ森城の風景全図(南西より)